

令和6年度 第1回松本市図書館協議会 議事録

日時：令和6年7月3日（水）10：00～11：40

場所：松本市中央図書館 第1、2会議室

【出席者】

委員 7名（住吉委員欠席）

事務局 14名

傍聴者 1名

【議事録】

1 事務局からの事務連絡

松本市校長会から毎年推薦をいただいております。今年度は昨年度の柳澤委員に代わり、濱中浩委員をご推薦いただいたのでご紹介。次に、本日の会議は、松本視覚障害者福祉協会の住吉委員が欠席。本日は8名中7名の委員が出席で過半数を超えているため、会議が成立していることを報告。

2 館長あいさつ

本日はお忙しいところ、お集まりいただき感謝。昨年、中央図書館へ異動してから早いものでもう1年が経過した。今年度もすでに3カ月が経ってしまった。どれだけのことができているのか反省したりしている。今年の4月に新聞記事に掲載されたが、全国の自治体から書店がなくなっているということで出版文化産業振興財団というところの調査で、長野県内では53.2%の自治体で書店がないということだそう。長野県は少ない自治体で2位ということで書店が減ってきていて、松本市も大きな書店はだいぶ姿を消している。一方で独立系書店といわれるような個人で経営をされる書店は増えてきていると感じる。今年の5月には書店主の方、これから立ち上げようとされている方とトークライブの形で話ができた。図書館で新しいつながりができたらと思っている。また、松本パルコの跡利用ということで図書館を軸とした複合的な施設が入るというような案も検討されたが、パルコ側からの辞退ということで白紙状態と今はなっているが、こうした書店の衰退や図書館の在り方も今後変わっていくと思う。一方で松本市の図書館では昨年度は子ども読書活動の環境を整えるということで公立小学校の1年生

のクラスに学級文庫という形で本を設置する、サードブック事業をスタートしている。3月から図書館の新規の登録、更新、再登録、デジとしょ信州の利用登録の電子申請を始め、メール登録いただいている方に督促がある場合、一斉配信するという業務の省略化も行ってきた。また新たな人をつなぐ試みということで、ライブラリーまつもと、暮らしに役立つ図書館講座といったようなイベントもスタートした。ビジネス支援では仕事サポートミニコーナーも館内に設置している。これまでの会議の中で松本市の図書館は職員数が少ないとご意見いただいているが、少ない人数の中でも職員が頑張ってくれており、成果も上がってきている。少しずつではあるが、うれしいことであると思っている。そして、市長選があった関係で今年度の当初予算に計上できなかったが、先の市議会6月定例会で補正予算の承認をいただいた。村井駅と四賀公民館図書室へのサービスポイントの設置やアドバイザーの登用ということで、これは伊東会長にお願いをするものであり、後ほど説明をさせていただくが、こういった新しい取り組みも行われていく予定。今後も図書館として努力していくので、今日のご協議の程よろしくお願ひしたい。

3 議 題

(1) 報告事項1 令和5年度事務事業報告について

資料1～4ページ 事務局より説明

ア 主な内容

令和5年度事務事業の概要

中央図書館の総合評価

令和5年度における重点目標の成果と課題

- ・松本市図書館未来プランに基づく事業の推進（継続）
- ・中央図書館の大規模改修（継続）
- ・電子図書館の導入とICTの利活用（継続）
- ・子どもの読書活動の推進（継続）

イ 意見・質問

（委員）

- ・資料3ページの(3)ア(イ)bに「新たに視覚に障害がある方のためのアクセシブルライブラリーの利用登録を開始しました。」とあるが、これは音声自動読み上げのことでよいか。

(事務局)

- ・ 文字を自動で読み上げる機能になるため、誰かが音訳をしたというわけではなく、あくまでもロボットが読み上げる形になる。

(委員)

- ・ 私の活動は目の見えない方や目に障がいがある方、見えにくい方に対して対面朗読を行っているが、そういう場合は非常に助かるものだとは認識している。去年の10月頃に市民タイムスに記事が紹介されていたが、松本市の利用申請は0件、安曇野市では2件の申請、塩尻市は0件とあったが、それから8カ月経過しているので利用状況、何件くらい申し込みがあったか教えてほしい。

(事務局)

- ・ 松本市としては3件の申請がある。

(委員)

- ・ 思ったより少ない、もったいないと思う。

(事務局)

- ・ 現在、松本市へ派遣で来ているが、県立長野図書館の職員としての立場でお話させていただくと、昨年度スタートして、現在長野県内で実際にカードを配布する窓口を設けている自治体というのは15自治体。77市町村がある内のそれくらいで、プラスして県立長野図書館が設けている。窓口が小さい自治体の図書館だと職員が1人しかいないような所もあり、全ての自治体ではできておらず、実態としてこの状態。昨年度もラジオに出させていただいたりとか広報は進めているところではあるし、自治体によっては福祉部局との連携を進めながらという所もあるが、個人情報の部分やセンシティブな部分もありなかなか上手く進められていないということが全県的な傾向としてあって、今後これから色々と使えるように進めていければと思う。

(委員)

- ・ 申請は中央図書館のみか、それぞれの図書館で申請できるのか。

(事務局)

- ・ 分館でも申請はできる。

(委員)

- ・ QRコードを読み取って利用するが、その場合は中央図書館まで来なけ

ればならないのか、それとも各図書館で利用できるか。

(事務局)

- ・分館でも大丈夫。来館いただかなくても例えば郵送でもできるし、代筆でも可能。実際にご本人が文字を書けなくても代筆で申請していただければ使える。

(委員)

- ・最初の初期設定が難しいと聞いた。実際に目の不自由な方が申請されるわけではないと思う。周りのご家族とかヘルパーが代理でお連れになって利用すると思うが、そういう場合は教えていただけるのか。

(事務局)

- ・後ほど、実際の利用をその場でしていただいても可能だが、今利用するためにはカードをお配りしてあるが、そのカードにQRコードが印刷されており、それもスマートフォン等で読み取っていただくと、すぐそのサイトにもいけるし、そこで使っていただくことは可能。
- ・昨年度から長野盲学校にお邪魔して盲学校の生徒だったり、実際にそこで働いている視覚に障がいがある先生方に使っていただいて、これだったら使えるとお話もいただいている。松本市の信大病院の隣にある長野県視覚障害者福祉協会にもお邪魔して講習会をやらせていただいている。実際に使っていただいて、多くの方はご自分のスマートフォン等で使えるようにはなっていると思う。さほどその設定を何かしなくてはいいないということはないと思う。

(委員)

- ・利用者の方が増えることを願ってよろしくお願ひしたい。

(2) 報告事項2 松本市図書館未来プランの進捗状況について
資料5ページ 事務局より説明

ア 主な内容

- ・趣旨
- ・令和5年度の評価指標に対する実績

イ 意見・質問

(委員)

- ・外国語資料の購入冊数について、この館が建設する時からいろいろな外国語資料の購入をお手伝いさせていただいていた。毎年、この委員に選ばれる時に館長たちに申しあげているが、ただ買っているのではなく（本を）開いて、どんなものがあるのかとか、この館はこんなものを集めているというようなアピールが何年間もない。最初の頃は日本語と英語で対応していた。松本市の図書館は多言語もあるいろいろなものがあるという声を耳にすることがあったが、今は、たくさん本はあるが、それがただ棚に入っているだけなので、できれば1年に1回くらいはどういう観点で外国語の資料を集めていて、こういう本がありますという展示とかアピールをして欲しい。担当者も変わるので、聞かれてもどういう本が入っているとかどういう経過でこの本が入っているのかとか、利用者から聞かれても説明が困難だと思われる。いろいろな活用方法というものを出していただければと思う。
- ・先程、視聴覚の話が出たが、伊藤忠記念財団などがデイジーを松本養護学校や図書館などにも無料で配布しているが、それをどう活用していいかわからない方がほとんどで、松本市のアピールもものすごく足りないので、もらっただけという形のものが多い。利用者の方にとって活用できる形に変えていく必要がある。そのためには職員の専門性を深めていただくことが大事だと思う。

(事務局)

- ・外国語資料の関係、児童書にも入っている。児童書、一般書も含めて活用方法、PR方法等考えていければと思う。

(委員)

- ・対面朗読サービスについてコロナ禍でお休みしている利用者もいるが、なかなかこういうサービスがあるというのが浸透していかない。こういうサービスがあるということ自体を知らない方が多い。利用者の方に聞くと、こんなに助かっているのになんでみんな知らないんだろうとよく言われる。PRの仕方、認知をしていただくためにはどうしたらよいかというのを考えていただきたい。いろいろ方法はあるかと思うが視聴覚障害者福祉協会が無料相談会を時々やっている。そういう場でPRしていただくとか、広報で取り上げていただくとか、町内会の回覧板に入れ

ていただければ浸透しやすいかと思う。何らかの形でPRをお願いしたいと思う。

- ・未来プランの中にある、図書館アンケートの結果の中に対面朗読サービスが4.8%の人しか知らなかった。このアンケートは10代から70代以上の方まで1,388人から回答を得ることができたと記載がある。回答をいただく方というのは、図書館に興味があり、行政に対しても意見をお持ちの方も多いかと思うが、その方の中の4.8%しか知らなかったということは、単純に計算して66人くらいになる。利用している方は回答者の0.1%、1人いるかいないかくらいになる。せっかくのいいサービスをやっているから、認知度を上げるためにはどうしたらよいか、考えていただければと思う。私たちも月に1回の勉強会とか研修会とかを開いたりして、資質の向上を目指している。

(事務局)

- ・県立長野図書館では、長野県視覚障害者福祉協会が毎年夏に研修会をしているということで、昨年そこにお邪魔させていただいた。今後はそういうつながりもできたので活用させていただく予定。また、松本盲学校にお邪魔して、先程お話のあったアクセシブルライブラリーについてのご説明をさせていただく機会を設けてもらっているから、そんな所も活用しながら今後進めていきたいと思っている。

(会長)

- ・市の各部所への貸し出しがグンと伸びていてすごくいいと思って見ているが、これは団体貸し出し扱いになるのか。庁内に送るというのはどういう貸し出し方法になるのか。

(事務局)

- ・各課に利用者番号を割り当ててあり、ウェブからも予約できるという中で一般書の予約をしていただいてそちらを貸し出しするという形でやっている。なので団体の書庫にあるものでなく、一般の方も利用できる開架にある本を貸し出ししている。

(会長)

- ・分類としては個人貸し出しではなく団体貸し出しということでよいか。

(事務局)

- ・分類としては団体貸し出しになるが、本としては個人貸し出しの資料、

開架の資料をお貸ししているということになる。

(会長)

- ・質問ではないが、登録者数が1割増えたというのは普通にある変動なのか。すごい変動だなと思って見たが、その割に貸出冊数が減っているところの因果関係が分からないが、おもしろいなと思っている。たぶん年代別とか地域別とかでも統計が取れていると思うので、その辺りの動きで何が起きたのか分析をしていただくことがよいと思った。
- ・貸出冊数が減っていることについては、利用者が増えていて貸し出しが減るということは珍しい傾向かと思う。利用者側と蔵書のミスマッチが起きている可能性があるので分析をお願いしたいと思う。

(事務局)

- ・登録者数が増えた理由としてはまだ分析がしっかりできていないので、会長からいただいたご意見を参考に分析していきたいと思う。
- ・貸出冊数の減については補足だが、昨年度南部図書館は併設している公民館の建物の改修工事があったことと、あがたの森図書館は耐震工事が終わり元の図書館の部屋へ戻るということで、どちらも約2週間ほど休館をしている。また、図書館全体でサーバーの更新をするということで、5日ほど休館をした経過があり、相対的に貸出冊数には影響をきたしていると思っている。

(会長)

- ・私からも補足だが、その貸出冊数の下の段の市民一人当たりの冊数が松本市は6.4冊という数字が出ているが、全国平均は約5冊。数字だけでいうと松本市は結構高い数字が出ているのは事実。なので貸出冊数が152万冊が150万冊になったのは誤差の範囲の数字であると思っている。ただ、市民の内の貸し出しを実際行ったパーセンテージを言ってしまうと10%そこそこしかないと思われるので、逆にそこが15%、20%になっていくと、貸出冊数に直に響く数字になるので、総合的にいろいろ考えてもらえばと思う。

(委員)

- ・個人的な感想だが、最初に松本市の図書館に来た頃は自分が読みたい本は予約すればすぐに借りることができた。私の年代はビジネス書とか最近話題になっている新刊本というのは3人くらい待てば借りられる状

況だった。今は50人とか60人待ちになってしまって、これだと本を買いに行くか、諦めようというパターンになってしまう。新しい本というのは皆さんが読みたがるが、全部買っていたら予算的にキリがないというのは分かる。その辺は先程会長さんがおっしゃったように、年代層とどういう本を借りているかというデータ分析をしていただいて、やっぱりこの本は買っておいた方が、若い方たちが欲しい本を借りられる、これから経済も難しい状況にきているので、昔のようにアマゾンでポチという若者も少しずつ減ってくると思う。そうすると図書館だとせめて50人待ち私は許容範囲だと思っているが、100人待ちは辛いのでその辺を考えていただくと、移住してきた人たちは都会だとはっきりいって200人待ちはザラにあるのでそこでサービスの良さを感じてもらえるのではと思うのでよろしく願いしたい。

(事務局)

- ・どうしても人気のある作家の本は予約がついてしまって、半年以上待っていただくということが多々ある。基準というものを設けており、松本市の図書館で7件予約が付いたら1冊増やすという複本制限ということをもたせている。小説でとても人気のある本については全館で1冊ずつは持つような形にしているが、それでも人気のある本は待っていただく状況になっている。限られた予算の中でいろいろな多岐にわたる本をみなさんに提供したいということもあり、同じ本に何十冊もというのは難しい状況であるため、その辺もふまえて検討していければと思う。

(会長)

- ・いわゆる小説のベストセラーみたいなものではなく、ビジネス系とかで50人を超える予約がついているのか。

(委員)

- ・私は(予約を)諦めてしまったが、田内学さんの「君のお金は誰のため」という本でお金の使い方を子どもでも分かりやすく教えている本で、ネタバレしてしまうので中身は言えないが、非常に教育的にお金に対する価値観が分かるビジネス書であったり、これはもう借りることができた本だが、「ダイウィズゼロ」という本で死ぬ時までにお金を使い切ろうというビジネス本も結構予約がついていた。あとは先程おっしゃったように人気の小説家の本はやはり50人待ちの本がある。ただ予算

の関係もあるので、おそらく1年経ったらもう借りる人はいなくなるというのは、ビジネス書だと思うのでその辺は分析をされてから買われる方がよいと思う。

(委員)

- ・新刊が出たら、すぐに図書館はそれを購入し、街の書店と同時に並べるのか。それとも一定の期間を置いて図書館は新刊の本を利用者にお見せするのか。本屋と同時なのか。

(事務局)

- ・基本的なことをいうと、業者（取次店）に発注をして、そこで全てバーコードとか装備をした段階で納品をしているのがほとんどになる。納品がされてから、こちらでデータチェック、間違いがないか等確認してから新刊のコーナーに出すという形になる。物にもよるが、雑誌とかは当然、発売日その日に納品され、なるべく当日、若しくは翌日には出すようにはしている。新刊の本についてはどうしてもデータを見たりだとか発注のタイミングだとかがある。人気の本は自動的に届く契約になっているが、どうしてもタイムラグが生じてしまう。なるべく早く提供できるような形にはしている。

(委員)

- ・そうなる買うよりは図書館で読もうという方が多くなってしまう。やはり街の書店が寂れていくのは見るに忍びないので、できたら新刊が出たら一定の期間は図書館は遠慮していただき、書店で買ってください、という感じにしたらどうか。

(委員)

- ・本屋の立場から発言させていただくと、先程、書店がみんな消えるという話があったが、「2028年街から書店が消える日」というショッキングな題名の本があり、中身はその通りというような内容が書かれている。人気のある本を50人待っている、100人待っているというが、本というのは売れないと絶対に次に出ない商品。すべての本を図書館で借りればよいというものではなく、本当に読みたい本はぜひ本屋で買って欲しい。でないと本屋は潰れてしまう。子どもの本と図書館の本は全然競合するものではなく、図書館で借りて何回も何回も読んで、この本はあなたのために買おうかという人が（昔は）ほとんどだった。今は、

「図書館で借りられるものは買わないの！」という親がものすごく多い。それは競合することではないと思っているが、ここまで図書館が盛んになってくると、若い人たちは、他のことにお金を使うようになってるので、本を買うということは珍しい行為になっている。今は本は借りるもので、そうじゃないものを買うということになっている。本というものが、図書館の冊数、プラス本屋に出ている数だけになってしまったら出版社は本を出せないし、次の本というのも出ていかないので、これば絶対いい本でみんなにも広めたいという本があったらぜひ自分で買って欲しいし、人にもプレゼントして欲しいと思う。

(会長)

- ・とても大事な議論というか話だった。どちらがどうというわけではなく、白黒つけるという話でもなく、どちらかというと板挟み的な部分もあるが、最後に言っていた、本そのものが出なくなってしまうという現実があるのは事実で、書店がここ20年ほどで半分になって、2万2千~3千店あったのが1万店ぐらいになっているのが現実。あわせて出版社も減ってきており、どちらも大手もそうだが小さなところも無くなってきており、こだわりをもっている本が出せなくなり、出版数もかつては初版が3千、5千あり、図書館に来て本屋にもあったが最近では初版が千5百とかで、図書館にすら全部入らない現実がある。松本市の書店には回ってこない本も相当あると思われるくらいな時代になっている。

(委員)

- ・学校でも問題になっているが、不明本について、それがどれくらいあるか。図書館から無くなってしまふ本はどれくらいあるのか知りたい。

(事務局)

- ・正確な数字ではないが、昨年6月時点で300冊ぐらいだったと思う。その年によって増えたり減ったりするが。

(委員)

- ・管理の部分が大変で故意に持って行ってしまう人だったり、返却を忘れてしまう人だったり、学校でもなかなか見つからず困っている。心ない人がおり、心が痛い部分もあるが、そういう管理が大変だと感じている。

(委員)

- ・夫から図書カードを誕生日プレゼントとしてもらう。そのカードを使って本屋に行く。夫は本屋が大好きで何時間でも過ごせる人。その間に私は買い物をして最後に合流する時もある。そういうものが手元にあるものすごく心強く、ゆっくりと、この本いいなとか、これは図書館で借りられるなと本を選んでいる。あと我々の年代になると荷物を段々と減らしていくということと、重い荷物は持てなくなるというのがはっきりと分かるので、昔子どもと読んだ本とか出てくるがまずは段ボールに入れて、さらにブックオフに持っていかうかと思って数年間そこにある。そして孫が大きくなると、よかったらこういうのあるけど読まない？と回すくらい愛着がある。子どもの本は本当に捨てられない。年を取ってから読んでも楽しいため取ってある。私たちが新たに買う本は、夫はマニアックな本やS Fの新刊が出たらすぐ買う。私は図書館があるからしばらく待っていれば出てくるかなと考え、ここっていう時を考えるようになった。図書カードで買いたい本と今は情報だけ、中身を見たいという本が分かれてきて、中身をのぞいてみたいと店頭でサラサラと見て、図書館でも見て、これは何回でも読みそうだなというものはさんざん迷ったあげく、買いたい、手に入れる。近所の方で車椅子使っている方も図書館には通っている。荷物はもう増やせないが読みたいという要求は強いので、図書館はありがたい存在だなと思う。
- ・資料5ページの施策の柱3のイベントの参加者数について、参加者数4,782人はすごく驚いた。中央図書館で開催しているライブラリレーは毎回すごくワクワクして情報を見るが、日程が合わず参加できていない。毎回おもしろそうと思っている。別の社会教育委員会の方でも、こういうのがあるから、市の広報出たら行ってみたいと声掛けをしたくらいワクワクして情報を見ている。

(委員)

- ・子どもの本に関わるが多く、ブックスタート、セカンドブック等のお手伝いすることがある。本を受け取ってくださる方の多くは子どもに本を読んでやることも、子どもに本を与えることもしっかりやっていると思うが、本のページをめくるとということが習慣化しているかという点、学校の教科書でさえタブレットが対応されるようになり、本を触る

ということが習慣でなければ、図書館にある本は買わないよと思うのは自然かなと思う。今のブックスタート、セカンドブックがあるが、図書館が行う試みというのはこれからの本が作られる、売られる、読まれるという部分に関してとても大事なことだと思う。

- ・学童の仕事をしているが、学童ははっきりいって予算がない。新刊本を買うことはまずない。子どもの持ってきてくれる本、例えば図書館で除籍された本を分けていただいたり、専任の職員がものすごく苦勞していただいたりするが、一部の子どもを除いて、読むのはジブリの絵本とコロコロコミックだけがほとんど。そういうのを見ているとネットの小説を書籍化したものをすごく読まれて、すごく捨てられてブックオフに並んでいるのを見ると今までとは本の扱いが本当に変わってきていると思う。今、親の世代が本を、ページをめくるという習慣がもしかしたらないかもしれない。以前、引っ越した時に自分の本を机の上に積み上げることがあって、本の重みで机を壊したことがある。この後は図書館で借りられる本以外は買わないとしていた時期があったが、結局、ページをめくるということがやめられなく、(本が) 増え続けている途中だが、その習慣と実感がない世代がタブレットを使っているが、タブレットで新聞のようないろいろな情報を求めて、そちらの方が主体の世代に本を使うというのは逆に、ブックスタート等含め図書館の大事な仕事になってきていると思う。
- ・ライブラリレーも参加したことはあるが、大人だけでなく、子どもだけでも参加できる対象の企画があってもいいのではと思う。
- ・電子書籍の一覧というのは見られるところはあるか。電子書籍の図書館のページというのにはあったが、一覧というのには分からなかった。簡単検索のページから調べた先に電子書籍もありますという情報が入ることはあるか。

(事務局)

- ・電子書籍については一覧になっているものはない。ベンダーの方には一覧ということで先程のアクセシブルライブラリーについてもお願いはしているところだが、実際はそこは出せないと言われている。要望は今も続けているところで、いつかは出せるかと思っている。量が多いということもあり、それを例えばどこかエクセルの表の形にしておくというこ

とが今はできていない、というのが実態。デジとしょ信州の契約先がアメリカの会社ということもあり、きちんと一致したものは出てくるが、例えば日本語だと少し間違っているけど何とか検索すれば出てくるが、そういうことができない仕様になっている。そこもできるようにと要望は出している。一つ、検索として出しやすいのは、県立長野図書館が作っている、「信州ブックサーチ」というものがあるが、長野県内のすべての市町村の図書館、大学の図書館等を含めた検索ができる仕組みになっている。そこにはデジとしょ信州という、電子書籍のものも含めて検索できるようになっている。検索した結果として、紙の本はこの図書館にあります、電子の本はデジとしょで読めます、というのが両方併記されて出てくるような形にはなっている。デジとしょ信州というのは市町村が一緒にやっているため、松本市の図書館の検索でそれが出てくるというわけではない。「信州ブックサーチ」で検索していただくとうる形になっている。

(委員)

- ・もう一つ質問。アクセシブルライブラリーの説明や紹介を盲学校等の施設でやっていると聞いたが、医療機関へのアプローチというのは行っているのか。

(事務局)

- ・今のところまだできていない。昨年度は長野盲学校等にお邪魔させていただいた。いろいろ相談は進めているところなので、今後どういうところに行きPRしていくか等進めていければと思う。

(3) 報告事項3 令和6年度重点目標について

資料P 6～8 ページ 事務局より説明

ア 主な内容

- ・事務事業の内容
- ・令和6年度における重点目標

イ 意見・質問

(委員)

- ・資料6ページの(キ)「若者世代への広報を強化するため、年度内にSNSを活用した情報発信を進めます」とあるが、どんなことを考えて

いるか。

(事務局)

- ・まだ具体的には決まっていないが、教育委員会でユーチューブの番組をもっているので、検討している段階。

(委員)

- ・Facebook とかインスタグラムはやっているか。

(事務局)

- ・図書館ではXと Facebook を開設。インスタグラムはまだやっていない。

(委員)

- ・例えばインスタグラムとかで新刊本の紹介、イベントの紹介などをするとこれが図書館の（貸し出し）冊数の増加につながると思う。大人たちも Facebook、インスタグラムが主流になっているので、そういうところで活用していくのも一つの手だと思う。
- ・資料6 ページの2（1）イ（ア）「まちづくりの中核となる市民の交流の場」とあるが、パルコの話がなくなり、村井駅の活用は非常によいと思うが、例えば松本駅の空きスペースの活用もできるのではないかと思う。今、図書館の主流になっているのは駅に近い場所での図書館の開設というのが主流になっていると思う。出掛けて行ってその場で借りられるというのは、借りる方もとてもうれしいと思う。そういうところも含めて、村井駅でできるのならJR松本駅でもできるのではと思うので、そんなこともできたらいいのではと思う。

(事務局)

- ・以前、未来プランを策定する前にアンケートを実施した中でも、駅で本が返せたらいいというご意見はいただいている。ただ実際のところ、まちなかの図書館の設置の検討がどこまで進んでいるかということ、図書館から具体的にここに入りたいという所を指定して検討を進めているわけではない。駅については松本駅と松本市とアルピコ交通の3社で駅前をどういうふうにしていくかという協議はずっと続けていると建設部の方からは聞いている。市長が記者会見の中で駅からお城にかけての中心市街地の大きな見取り図を作成する時期に来ているとして年度内に検討会議を立ち上げて検討すると言われている。その大きな見取り図の中に図書館がどこまで入っていけるか、その先に図書館が入ってくるとまちな

かの図書館設置というところが進めやすいと思う。そちらの会議の動きも見ていきたいと思う。

(委員)

- ・以前、教育長と札幌市図書・情報館の初代館長と三の丸エリアプラットホームの方とで図書館で鼎談をやったが、我々には一切話がなくて、前日くらいに聞いて、ホームページを見たら記載があった。せっかく関わらせていただいているので、全体の大きな流れというか、そういうものを知った上で、発言をしていきたいと思う。出る出ないは別として、もう少し広報活動をしていただきたい。少なくとも委員がこういうものを行っていると思われるように知らせて欲しい。
- ・パルコの時もいろいろ話題になったが、パルコの跡地利用に図書館ができるのはいいねと言う人と、いやそれは無理じゃないかと言う人がいたが、それよりもそれをやるのは一体誰なのか、どういう人がどう関わって、全体を見てこういうものをやるのかという議論が欠けているのではと思った。何でもそうだが、やるのは人であり、今の図書館のこれだけの人数でこれだけの業務をこなしている中で、また新しく新たな図書館構想を立ち上げるということになれば新たに人を雇い入れるくらいのもがないと、図書館はどのような位置づけで、何が足りなくてどういう人を配置しなければならないか等がなければ、絵に描いた餅だと思う。やっぱり実際やっていくのは人。その議論がなかなか出てこないのは歯がゆいと思う。
- ・昨今、どこの自治体でもそうだが、図書館員という専門職が、正規の職員と会計年度の職員の数で逆転していて、正規の職員の負担も大きくなっていると思う。何年もやってベテランになってスキルを身に付けている会計年度職員もいるし、そうでない職員もいるだろうと思う。図書館が好きでこの仕事を選んだという最初の原点も段々とずれていって、自分たちがやりたいことではなかったみたいになってしまうとすごく残念に思う。会計年度職員がどのような位置付けで関わっていくのか、正規の職員は異動があるので真剣に考えないと、色々な柱を立てても、中で実際にやっていく人がこのままだと何か危ういというかそういう感じがしてしまうと思う。今日の会議も全員正規職員が出席していると思うが、この会議に出させていただくようになって、

毎年申し上げているが、非正規職員といわれる会計年度職員でも、この分野のところを積み上げていって欲しいと思われる人には（会議に）出てきてもらいたい。正規の職員が異動してもその人がいれば分かるという人が誰かいないと、何年か経つとみんな変わってしまうのは実にもったいないし、図書館のこれだけ積み上げてきたものが下手をすれば一瞬で崩れてしまう可能性もあるので、土台作りというか、どう考えていけばいいかというのを、ぜひ出席の正規の職員には真剣に話し合っていていただいて、会計年度の職員と自分たちはどのように一緒に同じ仲間としてやっていくのかというのを考えてもらいたい。これからのすごく大きな課題を一緒に仲間として頑張りたいし、我々もそういうつもりで参加しているはずなので、縁があって委員になったからにはお手伝いできることはしていきたいと思う。

（会長）

- ・PR不足というのは発言のたびに出ているので、発信の問題だと思うので体制を考えていく必要があるかと思う。
- ・会計年度職員の話は全体の体制を戻してもらおうという非常に重要な話だと思って聞いていた。実態としては長野県としては県下で8割が非常勤の状態になっている。むしろ一番支えているのはその方たちとなっている。それでよしとならないが、支えている方たちを大事にする体制を作っていくかといけないと思う。
- ・先程のパルコの件は新聞でも賑わせていたが、経過的なことをいうと未来プランが作られた時には、駅前に図書館が欲しいということが練り込まれていた。それを作る時に「それ、どうなの。それ本当に書いていいの？」と当時は言われていた。それから時を経てパルコが閉店の話が出て、一躍パルコが表に出たがそれも立ち消えた話の中で、元に戻ったと思えばよくて、駅前の問題は改めてきちんと考えればよい。言い方は悪いがパルコの問題は棚ボタだったと思う。それが実現できればよかったが、駅前のどんなところでどんな機能が備えた図書館ができるべきなのかという議論をこれから始められたらと思う。

(4) 報告事項4 図書館システム更新及び蔵書点検に伴う休館について

資料P 9 ページ 事務局より説明

ア 主な内容

- ・趣旨
- ・休館期間
- ・更新作業等の内容
- ・サービス休止内容
- ・周知方法

イ 意見・質問

(会長)

- ・システムの会社は変わるのか。

(事務局)

- ・システム会社は変わらない。そのままバージョンアップという形。機器が古いためそちらの更新ということになる。

(委員)

- ・9月26日からスマホ等で利用者カードのバーコードを表示できるとあるが、これはアプリではなく、メールからの設定ということでしょうか。

(事務局)

- ・現在、ウェブ利用者が利用している、利用者ポータルにアクセスしていただいて、そこから表示されるということになる。

(委員)

- ・利用者カードを持っていなくてもスマホからアクセスして借りられるということになるのか。

(事務局)

- ・その通り。

(会長)

- ・それでは全体を通して言い忘れた等、何かある方。順番で何かあればいいのでご意見を。

(委員)

- ・年々、業務がものすごく増えて大変だなあと、激動の時代に対応していくことになるが、上手く色々な人たちを頼って達成していただいて乗り切って進めていただければと思う。

(委員)

- ・ 1年前よりまた世の中がさらに変わってきていて、図書館のあり方も本のあり方もどんどん変わっているの、先を見なければならず大変だと思うがよろしくお願ひしたいということと、個人的には、返却ポストが開館時も使えるようになったのがすごいうれしい。本を返さなくてはと思っているが2階まで上がるのが面倒な時があり、休館日の時は活用していた。年配の方も返していたので、そういう細かいところもいろいろ気にかけてくれるとありがたい。

(委員)

- ・ SNSとか動画配信とか考えているようだが、それを見る若い人たち、高校生、中学生にも何らかの形で聞いていただけるといいと思って聞いていた。

(委員)

- ・ 図書館というのは静かに本を読んでという所だと思っていたが、この協議会に参加させていただいて、すごく図書館が動いていると感じている。動いているというのは本の貸し出しとかだけでなく、自分たちが企画して市民を巻き込んで、他の公の博物館とか松本市と大きく見て連携して先に進んでいる、模索していると感じた。静かに本を読みに行くところだけでなく、我々にもそういうチャンスを与えてくれて、刺激を与えてくれる所はいいなと思った。図書館は建物というイメージがあるが、近所の高齢の方たちを見ると、図書館に行って本を借りることが生きがいになっている方もいる。近くに、移動できる所に図書館があって貸し出しやすくて返しやすくてというところがもう少しポイントになってくれればと思う。
- ・ 対面で朗読してくれるというのも、段々目が見えなくなっていくのを自覚して、それだけでなく、見えないという病気も抱えてくると、そういうような朗読となると、前は視覚障がい者の方と思っていたが、わが身に降りかかるという気がしてきたので、利用できるような窓口があればいいと思った。
- ・ お母さん方の世代が本を読みにくい環境になっていると聞くと、小さい子やお産したばかりのお母さんに本の読み聞かせるチャンスがこういうところにあるというのを伝えていただけると、書物に対する関心が広まっていくのではと思った。

(委員)

- ・学校現場にいますと、今の子どもたちは読めない子が多くいると感じています。小さい頃からインターネットに触れているので、見ることが多く、読むということが少なくなっている。これから図書館を生かすということを考えた時に本の貸し出しだけでなく、体験できるか、実際に子どもたちが触れて感じるが必要になってくるのではと思う。少しアナログのところに戻るといえることが必要ではと思う。

(会長)

- ・今日は出版の関係や多岐にわたる話が出てよかった。先程の報告事項4で図書館システムの更新の話が出たが、図書館の世界で図書館システムというのは、本館があり、分館があり、全体のネットワークが市民にどのようなサービス体制を取れているかというのを大抵は図書館システムという言葉で呼んでいる。松本市でいえば、中央があり、分館が10館、信州大学との連携、今度は村井駅や四賀地区にもサービスポイントができるので全国的にみてもそういうネットワークを発達させてきた自治体だと思っている。資料も豊富に備えていることができている。市民とのミスマッチがおきているいないという話も出ているがそれは考えなくてはいけませんが、そういう体制の中で、最後におっしゃっていただいた体験とか交流とかを読書から離れたものを図書館が要求されるような時代になってきたという、動きを感じるということが見えてきたのではと思う。松本市の図書館は動き出しているということを感じていただけているかと思う。今日は分館の館長も出席しているが、全体で一つという、正規職員がいて会計年度職員がいるという、当たり前のことだが、さらに各館も一つになって、ターゲットは市民なので、そこに向けてのサービス体制に向けて融合してもらえればと思う。

4 閉 会